2Qp-6　　1993年ワンピース・ドレスのイメージ

東京家政学院短大　井澤　尚子

目的　情報化社会において、急速に変化するファッション環境の中で、女子学生の服装に対するイメージはどのようであるのか。それには、その要因を知る必要がある。そこで、学生が最も着用したいワンピース・ドレスを創作，着装させ、その色彩・素材・形態についてイメージを調査した。更に、そのデータを基に、服装における嗜好を明らかにし、ファッションに関するイメージ要因の検討をおこなった。

方法　1）被験者　本学短大　生活科学科学生76名（年齢18～19歳）、2）生地購入時期　1993年4月，完成　1994年1月、3）着装評価　形容詞22尺度　5段階評定、4）主成分分析法　イメージ・プロフィール，相関行列，因子負荷量，個人値と色彩との対応、イメージ空間に解釈を加えた。

結果　学生が選んだ生地素材は、季節の影響で天然素材のウールがほとんどであった。イメージ・プロフィールは「落ち着いた，好きな，上品な，清潔な」が上位であった。相関の強い形容詞は「明るい，甘い」、「明るい，可愛らしい」、「やわらかい，軽い」、「若々しい，明るい」であった。因子負荷量は、第1因子「明るい，可愛らしい，若々しい，甘い」（ロマンチック）、第2因子「落ち着いた，強い，洗練された」（シック）、第3因子「上品な，単純な」（シンプル）、累積寄与率52.1%。したがって、評価，力量，活動の因子であることから、女子学生のファッション嗜好には、潜在的に学生らしさの中に、自分らしさを主張する自己表現と、服種の特性としての因子が存在していることがわかった。